

【全体概要】

近年、京都府では、機械摘みてん茶の生産が増加しているため、機械摘みに適し、覆い香味に優れる新品种「展茗」を品種登録した。しかし、実需者による評価が定まっておらず、品質の向上する被覆方法を求める声上がるなど課題がある。そこで、最適な被覆条件の確立を行うとともに、品質向上につながる生産者と実需者の交流会を行い、本品種の普及、定着を図る。

新品种・新技術等の概要

「展茗」は、宇治茶主要品種「さみどり」の株張り、収量性、品質を向上させた、てん茶用新品种

- 品種名:展茗(てんみょう)
- 育成年:平成18年
- 育成者:京都府茶業研究所
- 育種法:「さみどり」自然交雑実生

<特徴>

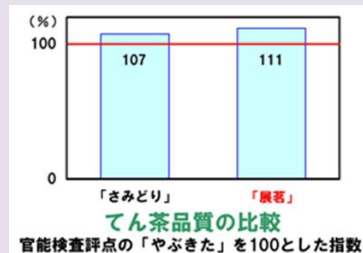
- ①樹勢が強く株張りが良い、機械摘みしやすい
- ②覆い香味に優れ、機械摘みてん茶として、主要品種「やぶきた」に比べ、品質向上が期待できる。

<課題>

まだ、茶市場への出荷が少なく、実需者による評価が定まっておらず、品質の向上する被覆方法を求める声上がっている。



機械摘み仕立ての「展茗」
株張りが良く仕立てが容易



主な取組内容

【被覆条件試験実施】

茶業研究所で、被覆条件(早期被覆、強遮光)による品質、収量への影響を調査。
※早期被覆＝慣行より早めに被覆を開始(慣行1.5葉期、早期0.5葉期)
強遮光＝遮光率99%による遮光期間を慣行より長く設定

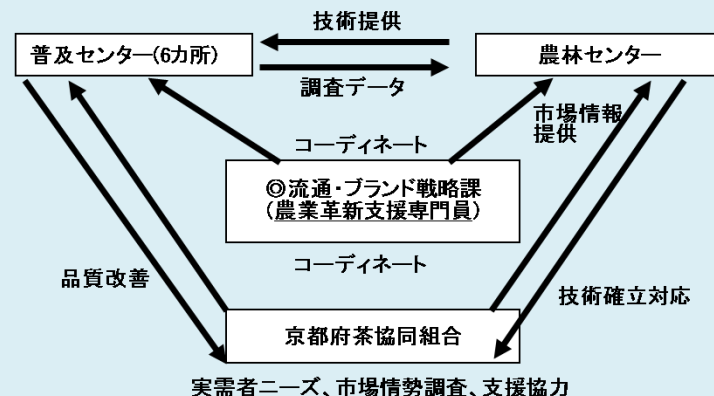
【現地実証ほ設置】

○3市町村に実証ほ4カ所を設置し、サンプル採取、栽培条件を調査。

【展茗生産者交流会および茶商業者評価会】

- 生産者14名、現地指導者(JA等)16名が、試験結果の確認、荒茶評価を実施。
- 京都府内でてん茶を扱う主要茶商業者6社が品質評価を行う場を設定。

コンソーシアム候補の体制図



課題と今後の対応

<実証結果および課題>

- 1 強遮光は、品質、収量ともに向上した。また、早期被覆により品質は向上したが、収量が約60%となった。
- 2 生産者、実需者それぞれで品種の評価を行った結果、実需者の要求に沿って、品質向上を目指すこととした。

<今後の対応>

- 1 収量が低下しないよう被覆開始時期を平成26年度よりやや遅らせた区を設ける等により最適な被覆条件の絞り込みを行う。
- 2 生産者、実需者が揃って品質評価ができるマッチング評価会を実施する。

